

BSOの 情報てんこもり

2022年03月17日号

制作・発行：(株)BSO 支援企画部

TEL：(06)6351-5836

～ タイムリーな情報を、いち早く皆様にお知らせします ～

◆企業力

- ＝ベクトル合せ×知恵×実践力
- ＝販売力×製造力×管理力×挑戦力
- ＝協働×知恵×考働力×勢い

◆オンリーワン企業づくり⇒企業力⇒組織力⇒協働力⇒ベクトル合わせ

1) 人財の育成投資は機械設備投資に勝る

(1) 教育とは

- ・「教」は自分と一緒に仕事が出来、自分を超越する人になって貰えるように育てること。
- ・「育」は素晴らしく有意義な人生を過ごせるような人になってもらうために鍛えること。

(2) 人を育てるのは上司以外にない

- ・わが社の経営の想いがわからない上司には部下は育てられない。
- ・外部の教育機関を利用するのは、上司のやるべきことを手伝ってもらう場合のみである。

2) 所詮は集団考働力の質が企業のパワー

(1) 就職社員・就給社員の能力を活かし、使えるのは就社社員しかいない。

- ・就職社員には、自己実現と自己評価ができるよう本人が納得出来る環境を整備してやり最高の能力を発揮させる。
- ・就給社員は、働くこととは関係なく収入を出来るだけ沢山得るのが基本的目的である。
- ・それぞれの社員に、働きに来ている目的に合った働き方をさせた上で、会社の目的を達成させる否かは就社社員の出来にかかっている。

(2) 企業と共存共栄する就社社員の確保と育成を目指さなければならない

- ・その前に、心身共に帰属意識の高い企業を目指そう。

(3) 就社社員を中核人財・プロデューサーとして如何に育てられるか、がこれからの日本企業の存続・発展を左右する。

- ・現場の中核人財の育成
- ・マネジメントプロデューサーの育成
- ・ICTプロデューサーの育成
- ・ストラテジックプロデューサーの育成
- ・ビジネスプロデューサーの育成

(4) プロデューサーに何を修得させるか

- ・経営者の想いを共有する。
- ・世界の移り変わりの中で、自分が何をしなければならないかを考える。
- ・自社の果たすべき役割は何かを理解している。
- ・経営工学、管理工学を学ぶ。
- ・自社の果たす役割のなかで自分が担当出来る技術を修得する。
- ・関係者と協働する。

◆生産技術×戦略経営

1) 「生産技術」とは、コストに見合う価値を社会に提供する方法を開発改良保全することをいう。

(1) この「方法」はいまや機械工学や電気工学を超え情報工学、電子工学、化学工学などの技術へと広がっている。

(2) 知識を持って技術を使うテクノロジーではなく、これらの色々な技術を駆使し課題問題の解決が出来るエンジニアリングが求められている。

(3) 特に、開発改良保全を実現するよう挑戦することも大切だが、それ以上に生産企画が出来なければならない。

2) 「戦略経営」とは、状況適応型経営を言う。

(1) 時代の移り変わりの時間が短縮化している現代、企業はロス最小限化を工夫し、自ら自分たちが生きて行く市場に最も適合して行かなければならない。

(2) 技術的には市場に価値を提供できるよう全社員の参画によるリストラクチャリングやリエンジニアリングが出来る方法を持っている。

◆戦略の展開

要は、とにかく設計・図面づくりは後回し。まずは、模型をつくることから始める。

高鳥王昌著『王昌の「モノづくり」』参照

詳しい記事やその他の情報は、BSOのホームページ <http://www.bso.co.jp> へ

情報てんこもりは、弊社の協働活動(受託事業・企画事業・出版事業)のタイムリーな情報をいち早く多くの方々を知っていただく為に発信しております。(お問い合わせはshienkikaku@bso.co.jpまで)

